

「ロレンゾの友達」考

後藤 忠 2018.12

「ロレンゾの友達」は平成4年3月の文部省「小学校読み物資料とその利用」に掲載されて、後に数社の副読本や教科書にも取り上げられ、今も多くの学校で使われている有名教材のひとつである。

この教材は臨場感があり、児童の興味・関心を引くものだが、「本時のねらい」に迫るといふ観点からはなかなか困難な教材だと私は感じてきた。

本教材は、ロレンゾの友達であるアンドレ、サバイユ、ニコライが、警察に追われているというロレンゾがもし夜中に自宅を訪ねて来たらどう対処するか、樫の木の下で話し合う場面から始まる。

アンドレ…ロレンゾには捕まってもほしくない。彼は罪を犯すはずがない。お金を持たせて逃がしたい。

サバイユ…罪は償ってほしいが、事情があったのだから、まず自首を進める。納得しないなら逃がす。

ニコライ…ロレンゾには捕まってもほしくはないが、きちんと罪は償ってほしい。自首を進めて付き添う。納得しないなら警察に知らせる。

教師用指導書の展開例や公開授業等の学習指導過程では、その多くが「君は誰の考えが一番近いかな？」と児童に問うている。その結果、(私が参観した限りではあるが)一番多いのが「サバイユ」、次に「ニコライ」で、「アンドレ」の考えが一番近いと答えた児童は極めて少数というのが実際である。そこで授業者は児童に議論させ、児童の考えの変容を図ろうと試みるのだが、なかなかそれが授業者の思惑通りに進んでいかない。中には授業者の指導意図？を読み解こうとする児童まで現れる始末で、「流れるにはサバイユかな？」などのつぶやきさえ聞こえる。

数年前に参観した八丈町立某小学校第6学年の授業でのことだが、若い男の授業者も児童の考えを「サバイユ」に導きたかったようだが、ある男の子が頑として「俺はアンドレ！」と言い張って譲らない。先生は困ってしまい、「どうして君はアンドレの考えがいいと思うのか？」と問うた。するとその男の子は「親友を警察に売るような真似は僕にはできない」と答えた。先生は絶句であった。

友情とは何だろう？ 友達とは何だろう？「学級全員は友達なんかじゃない。どうしても好きになれない奴だって学級にはいる」「友達が一人もいなくなったら幸せに生きている奴はたくさんいる(北野武)」「友達は善悪で作るものじゃない」「友達がいたらいいことがあるなんて打算だ。そんなことのために友達にされたら、たまったものじゃない」

プロ野球界のヒーローだった清原和博氏が覚醒剤取締法違反容疑で逮捕された時、ハマの大魔神佐々木主浩氏がマスコミのインタビューに答えて、「清原はこれから本当に大変な人生を送ることになる。僕は清原の友達だから、これからはずっと彼の側にいて支えたい」旨の話をされたのを聞いて、思わず目頭が熱くなった。

いずれにしても道徳の授業では、授業者の価値観(ここでは友情観、友達観)を自己の体験に基づき深めることが大事だと思う。そして、児童の実態(友情体験や友達観)を具体的に把握することが同様に大切である。

とかく扱いが難しいと言われている「ロレンゾの友達」だが、千代田区立麴町小学校の新谷和彦教諭の、何とかねらいが達成できる(迫れる)のではないかと思われる学習指導案を本人の許可を得て掲載するので、授業構想の参考に資していただけたら幸いに思う。

第6学年 道徳科学習指導案

日時 平成30年10月30日

対象 千代田区立麴町小学校

第6学年2組 40名

指導者 新谷 和彦

1 主題名 「大切な友達のために」 B〔友情、信頼〕

2 教材名「ロレンゾの友達」

(出典：『道徳教育推進指導資料(指導の手引き)2 小学校

読み物資料とその利用―「主として人とのかかわりに関すること」―』文部省)

3 主題設定の理由(授業者の指導観)

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)

『小学校学習指導要領解説・特別の教科 道徳編』には、以下のように記されている。

B 主として人との関わりに関すること

(10)【友情、信頼】

第5学年及び第6学年の内容

友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

友情は互いに信頼し合い、互いに学び合い、互いに励まし合ったり、助け合ったり、時には忠告し合ったりする中で育ち、深められていく。また、人は時として逆境に立たされることがあるが、そうした時に友達として自分はどうあるべきか問われることになる。友達の立場に立った見方・考え方で、本当に友達の力になることはどういうことか考え続けることが真の友情につながっていくと考える。

一方で、閉鎖的で自己中心的な友達関係は、居心地のよさばかりが追求され、お互いに甘え合っでそれぞれの課題に向き合う機会を損なわせてしまう場合もある。

友情を深めていく過程で互いに認め合い、協力し、助け合える関係を築いていけるよう、さらにその関係が自分と友達の成長につながることに気付き、互いに高め合う友達の素晴らしさを心から実感できるようにしたい。

(2) 児童の実態について(児童観)

授業に先立って、友達関係について児童の意識を把握するため、以下のアンケートをとった。

どんな時に友達がいてよかったと思いますか。(複数回答あり)

楽しい時間の共有	・遊んでいるとき ・しゃべっているとき ・楽しく活動している時 など	27人
相手の関わり	・困っているときに助けてくれた ・声をかけてくれたとき ・励ましてくれたとき など	22人
双方向の関わり	・競い合っているとき ・共感できたとき など	4人
その他	・あいさつしたとき ・喜んでくれたとき など	8人

アンケート結果から、本学級の児童は「互いに～しあう」という双方向の関わりの中で友達がいることの満足感や心地よさを感じる児童は少ないということが言える。内容を見ると、楽しい時間を共有したり、相手からの関わりがあったりしたときなど、自分にとって居心地の良い場面で友達の良さを感じる児童が多い。

本学級の児童は学校行事や学年内での活動など、友達と協力して活動する場面は多くあるが、その活動の中で互いに協力して高め合える友達がいることのよさについて実感できていない様子が見える。本時の学習を通して、力を合わせて活動する中で自分と友達が共に成長できることも友情関係のよさであることに気付かせたい。そして、相手のために思って行動しようという心情を育てたい。

(3) 教材について（教材観）

本教材は、警察から追われているロレンゾと、その友達3人の話である。ロレンゾにどう対応するか3人の友達が話し合うものの、意見が分かれてしまう。結果的にロレンゾは無実だったが、本当に罪を犯していたら友達としてどうすべきだったか、3人の友達は改めて考えた。

ロレンゾのためにどうすべきか真剣に考え、葛藤していく3人の内面を考える学習を通して、考え方は違うが、一人の友達を大切に思う気持ちに気付かせたい。そして、友情を深めるには友達のためになるとはどういうことかを親身になって考えることが大切であることを感じ取らせていきたい。

4 教材の分析

場面の要約	3人の心の動き	発問
①ロレンゾからの3人への手紙		
②ロレンゾが警察に追われていることを知る。	・本当に罪を犯したのだろうか。 ・信じられない。 ・絶対何かの間違いだ。	
④何か事情があったのではないかと推測する。	・何かの間違いだと信じたい。 ・本当に警察に追われているなら、何か事情があるのだろう。 ・助けてあげたいが、どうしたらよいだろう。	
⑤約束の場所で待つが、ロレンゾは来なかった。	・早く会って、何があったか聞きたい。 ・何かあったのだろうか。	

⑥帰ろうとするが、夜中に訪ねてきたらどうするか悩む。	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に追われているなら、合わない方がいいかもしれない。 ・会いたいけれど、どんな顔をしたらよいのだろう。 ・僕たち3人に会って、何を話すつもりなのだろう。 ・自分の家に来たらどうしたらよいだろう。 	
⑧アンドレ 「お金を持たせて逃がしたい」	<ul style="list-style-type: none"> ・友達には捕まってほしくない。 ・罪を犯すはずがない。 	○3人に共通するロレンゾへの思いは何だろうか。
⑨サバイユ 「自首を進める。納得しないなら逃がす。」	<ul style="list-style-type: none"> ・罪を償ってほしいが、事情があったのだから、捕まらせたくない。 	
⑩ニコライ 「自首を進めて付き添う。納得しないなら警察に知らせる。」	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が捕まってほしくはないが、きちんと罪を償ってほしい。 	
⑪アンドレ・サバイユ 「友達を裏切るようなことはできない」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの手で友達を捕まえるようなことはしたくない。 ・できることなら捕まってほしくない。 ・僕たちが警察に知らせたことが分かったら、ロレンゾは僕たちを恨むだろう。 	
⑫ニコライ 「逃がすのはかえって友達を苦しませることになる」	<ul style="list-style-type: none"> ・逃がしてしまうことはロレンゾのためにならない。 ・罪を犯していても、大切な友達であることはこれからも変わらない。 ・友達だからこそ、きちんと罪を償ってほしい。 ・逃げることで辛い思いを長く味わってほしくない。 	
⑬サバイユ 「警察には言えない。よほどの事情があるのだろう。」	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしても逃げなければならない事情があったはずだ。 ・警察に知らせることは、友達を裏切ることになるのではないか。 ・警察に言わないと信じてくれたから、手紙をくれたのではないか。 	
⑭3人は黙って家路についた。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすることがロレンゾのためになるのだろう。 ・本当に罪を犯したのだろうか。 ・罪を犯したのなら、なぜそのようなことをしたのだろうか。 ・ロレンゾは、この後どうするつもりなのだろうか。 	
⑮翌朝、警察署でロレンゾに出会う。	<ul style="list-style-type: none"> ・警察に捕まってしまったのか。 ・なんと声をかけたらよいのだろう。 	
⑯ロレンゾが無実であることが分かる。	<ul style="list-style-type: none"> ・無実でよかった。 ・やはり、ロレンゾが罪を犯すはずがな 	

	<p>かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杞憂に終わってよかった。 	
⑱再開を祝って酒場で思い出話をした。	<ul style="list-style-type: none"> ・ロレンゾと楽しい時を過ごせて嬉しい。 ・ロレンゾが無実でよかった。 	
⑲79行目 かしの木の下で話したことは口にしなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・ロレンゾを疑ってしまったことは言えないな。 ・信じるができなかった。申し訳ない。 ・ロレンゾの信頼を裏切ってしまった。 ・話したらロレンゾを傷つけてしまう。 	◎なぜ、かしの木の下で話し合ったことを口にできなかったのだろう。
⑳本当に罪を犯していたらどうすべきだったか、改めて考えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・まずはロレンゾの話をきちんと聞きたい。 ・やはり逃がすべきだ。友達には捕まわってほしくない。 ・やはり警察に言うべきだ。それがロレンゾのため。苦しい思いを長くさせたくない。 	○酒場を出た後の3人は、もしロレンゾが本当に罪を犯して帰ってきていたら、友人としてどうすべきだったと考えただろうか。

5 本時の指導

(1) ねらい

悩みながらも友達のためにどうすべきか話し合う3人の思いを自分事として考える学習を通して、友達の立場や気持ちを理解し、友達を信じ、互いに助け合って友情を深めていこうとする心情を育てる。

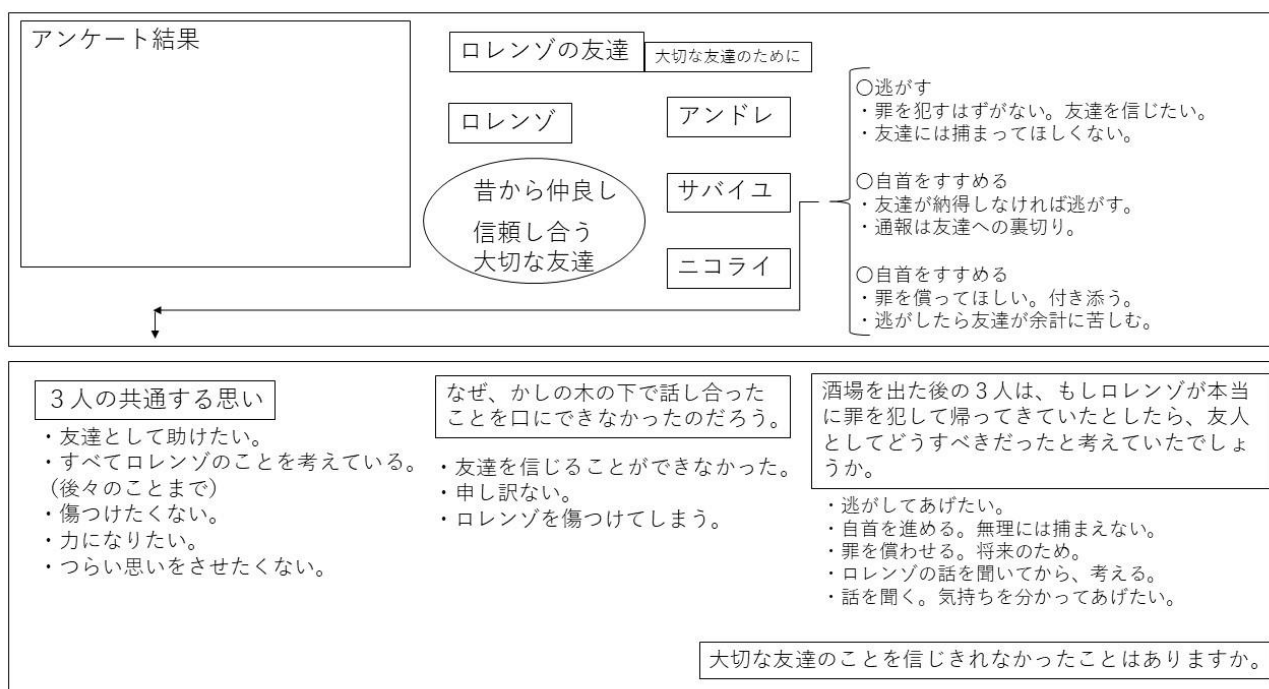
(2) 学習指導過程

	学習活動 (○主な発問 ・予想される児童の反応)	・指導上の留意点 ●評価
導 入	<p>1 アンケート結果について知る</p> <p>○どんな時に友達がいてよかったと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の友達との関係を想起し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。
展 開	<p>2 教材「ロレンゾの友達」を読んで話し合う。</p> <p>アンドレ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪を犯すはずがない。信じたい。 ・友達には捕まわってほしくない。 <p>サバイユ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪を償ってほしいが、事情があったのだから、友達を捕 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を配布 ・教材提示の前に登場人物を紹介し、3人の思いに注目して読むように指示する。 ・間に十分留意し、教材提示する。

<p>まらせたくない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を捕まらせるのは、友達への裏切りだ。 <p>ニコライ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が捕まってほしくはないが、きちんと罪を償ってほしい。 ・友達には辛い思いを長く味わってほしくない。 ・たとえ罪を犯していても、ずっと友達だ。 <p>① 3人に共通するロレンゾへの思いは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今でもロレンゾを大切な友達だと思っている。 ・ロレンゾのためを思って言っている。 ・ロレンゾの力になりたいと思っている。 <p>② なぜ、かしの木の下で話し合ったことを3人は口にしなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を信じるができなかった。 ・申し訳ない。 ・ロレンゾを傷つけてしまう。 ・後ろめたい気持ちがある。 ・疑ったことが分かったら友達でいられないかもしれない。 <p>③ 酒場を出た後、3人は、「もしロレンゾが本当に罪を犯して帰ってきていたら…」友人としてどうすべきだと考えたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・捕まってほしくはないが、将来のことを考えると罪をきちんと償わせたほうがよい。 ・罪を犯していても、友達を捕まらせたくない。 ・まずはロレンゾの話をしっかり聞いてから、どうすべきか伝えよう。 ・たとえ本当に罪を犯していても、事情があるはず。話を聞いて気持ちを分かってあげたい。 <p>3 友達関係について考え、自己を見つめる。</p> <p>*大切な友達を信じきれずに後悔した教師自身の話をする。</p> <p>○大切な友達のことを信じきれなかったことはありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材提示後、3人の考えや思いを教師が端的に板書で整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・板書の中の、3人に共通する思いにアンダーラインを引くことで、3人の考えは違うが、友達を思う気持ちは共通していることを捉えやすくする。 ・発問の後、隣同士で話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、考えを記述させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・まずはじっくりと自分で考える時間を設け、その後、グループで話し合わせる。 ・会話の中で聞き取った内容を板書し、付け足す発言は書き加える。 ●ロレンゾのためにどうすべきか考えることができたか。 ・主題や展開の前段を振り返ってから課題を示す。
--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・発表しなくてもよいことを伝える。 ・思い浮かべる時間を十分確保する。
終末	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>○詩を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都道徳教育教材集「友だち」の詩を配布し、1週間家で掲示するよう伝える。 ・余韻をもって終わる。 ・時間があったら学習感想を書かせる。

(3) 板書計画



友だち

関洋子

わたしより

わたしのことを

よく知っている

ときどき

わたしのことを

わたしより一生懸命になる

その友だちの

わたしは友だち